

# 保育上に於ける幼児の自由に就いて

目白幼稚園 和田 實

八

「幼児は自山でなければならぬ」と云ふ思想は保育上の通念として、現在では、凡ての保姆に因つて許されねばならぬこととなつて居る様である。従つて、干渉するな、壓迫するな、強要するな、威喝するな、自力で立たしめよ、自由に遊ばせよ、訓練も自力的でなければならぬ。躰げも壓制してはならぬ。悪癖矯正も自力に俟たねばならぬ。農村振興も自力更生を必要とする如く幼児の活動も凡て自力に因つて自己發展をす可きである。と云ふことで、共同遊戯をして居るときでも嫌になればドシ〜列を離れる、離れたかと思ふと、少し遊戯の興味多きを見て、また入る。入つて来て眞面目に遊戯をせず隣や前の子供にふざけたり、輪を亂したり、列を亂したりなどしても、之を制することなく、所謂、自由に放任して置くこと云ふのが、現在若い卒業したての保姆に多く見受ける通弊である。ヤンチャンな子供がお代官的な横暴を振つて友達を苛めても、之を制するに權威を持つてすることが出来ない。従つて、一幼児のヤンチャンが他の幼児に感染して、組の統制は益々亂れて来て、まとまりがつかない。何か命令したいことがあつても、「僕、嫌！」と宣言されては最早手も足も出せないで、夫れなり有邪無邪にしてもう。新に、良習慣を作ること出来なければ、決して不良な習慣を矯正することなど思ひもよらぬと云ふ様なことが、經驗淺き保姆さん方に往々にして見られる現在である。困つたものである。先日も某視學、殊に、幼稚園教育に注意して居られる某視學の云はれたのには、「近頃の若い保姆は唯、徒に理想を直に實行しやうとして、現在、預つて居る子供と理想の子供との相異點に頓着しないから、従つて、子供の管理と云ふものが無茶苦茶で、統制するところがない。子供と保姆との間も、相互的に依後信賴と云ふ様な様子はなく、子供は、唯、刹那

的な衝動的動作に逐はれて、暴ばれ廻る丈で、頓と兩者間に教育的關係を思はする様な活動がない」と云つて居られたが誠に穿つた批評だと思つた。現在預つて居る子供は理想の子供ではない。色々の缺點もあれば悪癖もある。過去の教育の缺陷もあれば性來の短所も暴露して居る。是等の子供を預つて、是等の缺陷を矯めると同時に其長所を發見して之を伸ばすことも考へて遣らねばならぬ。是が保育者の責任であり、仕事であらねばならぬ。従つて、保姆が保姆としての修養を積む際には、斯る實際に即した保育の方法を研究し、修養して置かねばならぬ筈であるが、現在の保姆養成所に於ける保姆の養成方法が、何うも之に副はぬ憾みがあるのではあるまいか。即ち、保育法其ものが、理想的な子供を理想的な状態にのみ置いて考へた所の理想的保育法で、實際の子供を無視した架空的た保育法を教ゆるの弊があるのではあるまいか、是が、吾人が、現在の保姆養成に對する缺陷の一つと考へる所のものである。本誌七月號の保姆養成に關する意見中にも明かに、二三の方が之を指摘して居られる所を見ても、確かに之は一般保姆養成上の缺陷に相違ない。

元來、幼兒の活動上に於ける「自由」は其遊戯的活動に屬する範圍に限らる可きもので、訓練上の問題に對しては自ら別種の問題たらざるを得ないのであるが、此處の限界なり區別なりを明かに會得して居る人の少ないのが斯る混雜を來した原因ではあるまいか。然して、此區別なり限界なりを明瞭に教へないのは明かに保育法教授其のものゝ不完全を意味するものと云はねばならぬ。保姆養成に従事するものゝ、大に努力しなければならぬ所として、吾人は前號の寄稿家諸君に感謝する次第である。吾人も、日々、多數の保姆を養成しつゝあるので、爾今、此點には大に注意する續りであるが、新進の保姆諸君も、徒に空想にのみ憧がれないで、眼前の實際に直面して、適切な方法如何と云ふことを研究されんことを希望する次第である。

訓練上の問題としては何故自由を尊重することが出来ないかと云ふことは訓練の目的を考察することに因つて理解出来なければならぬ。何故と云ふに、本來、文化生活其のものは決して、野生其儘ではない。否、寧ろ、文化的行動を採らし

むる爲めの躰け方と云ふものは、子供本來の野生的行動を種々なる文化形式に規制して始めて成立するものである。然して、此規制即ち躰け方は決して子供の自然の行動中に自然に成立するものではなくて、用意周到なる保育者の誘導に因つて漸く成立するものであるから、巧妙にして熟練せる幼児教育者に因つて躰けられたる子供は、何等の苦痛も壓迫も感ずることなしに、何時の間にかやら、優良なる躰け方を経て、理想の子供となることが出来るでせうが、凡ての幼児教育者が皆斯る優良教育者であり得ないばかりか、家庭に於ける母親としては、時には全然、育児、保育の知識に缺如して居るものがないとは云はれませんから、其躰けの方法には、随分無理もありません。従つて、躰け方に關する限りに於ては全然自由のみすることは出来ない筈であります。そんな無理な躰け方はしないがよいと云ふ人もあるかも知れませんが、夫れでは教育の目的を部分的に放棄することになるので、議論になりません。況して、家庭教育が不完全で、幾多缺點を持つて、幼稚園に初めて入つて來る數多の幼児を取扱はねばならぬ幼稚園の先生としては、ヘルバルトではないが如何にして是等野生に等しき幼児を管理して、如何にして其陶冶性を發揮せしむ可きか即ち、幼児をして教育され得る最良の状態に在らしむる爲めには先づ之を如何に管理したらよいかと云ふことが、當面の最大急務でなければならぬ筈であります。是が新入園児を始めて受取つた保姆の最初の活動であつて、保育法實行の第一段階と云つても差支ないものでせう。新進の保姆諸君は果して、之に就いて何んな用意がありますか、養成所に於ける保育法の講議中の何處に是等の論議がありましたか。保育法のノートの再検査を必要とします。

理想的方法としての訓練には勿論、自由な自力發展を目標として居るには相違ありませんが、既に、不良な状態に陥つて居る子供ありしたら、之を他の子供に悪い影響あらしめぬ爲めに、又其子供の將來を矯正する爲めの準備としても先づ、之を適當に取締る必要があります。其爲めには必ずしも子供の自由のみを尊重して居る譯には行きません。此場合に於ては保姆は充分其威嚴を示して、嚴格に命令を出さなければなりません。故に、事件が訓練に關する限りは必ずしも

子供の自由のみを尊重する譯には参りません。此處の道理が理解できたら何處迄が自由な遊戯の範圍であり、何處からは躰け方として見なければならぬかと云ふことが自然明瞭となるのではないかと思はれます。

既に、不良の状態に陥つて居る子供に對しては、先づ之を取締つて、其不良の状態を暴露させずに置くことが必要です。此爲めには教育者の威嚴を以て、其非違を遂げしめぬ様、又は強制的にも他の子供同様一定の規制に従はしむることが必要であります。子供の聞き譯がなくて、我儘無理に押し通す子供が時にはあるとしても斯る状態を何時迄も續けさせて居ては保母としての役目は果せぬ次第であります。之を適當に誘導して速かに聞き譯のある子供たらしめねばなりません。

遊戯中に列を亂したり、ふざけたりするのも、明に訓練上の問題で、遊戯上の問題ではありません。従つて是等不眞面目な子供に對しては相當な制裁があつて然る可きであります。況して、友達を苛めたり、保育者の命令を輕んじたりする様な不良状態に對しては嚴格な威嚴の本に教權の確立を期すると共に、更に、根本的に之を矯正する方法を考究す可きであります。

數十人の子供を一人で世話して居ると云ふことは、所謂、手落即ち不行届の點が出来ることは止むを得ないことですが是が困難の問題を起す原因であると云ふことは是非もないことあります。「若い保母は管理が下手だ」と云はれるのも此點が大にあると思ひます。殊に、スローモーションな吾々は多數の子供中に取締る可き子供のあることに氣付きながら其機を逸して、訓練の機會を逃がして仕舞ふことも、往々にしてあります。是は全く保母の技量の未熟を證するもので、實習不足、經驗不足を物語るものとして認識しなければなりません。是等技量上の未熟は一々經驗に因つて練磨しなければなりませんから、新進の保母諸君は一日も早く實習することを心掛く可きであります。

次に、遊戯上の自由にしても、其意義は幼兒の發達程度に因つては、形式的に決して、一樣ではありません。一二歳の

嬰兒にあつては、其遊戯は極めて衝動的で、刹那的欲望に連れて變化の流れが刻々に變つて行きますが、三四歳となれば幾分其變化が少くなり、一つ遊戯に對して可なり長い注意を集中することが出来ますし、五六歳ともなれば時には大人の勘え兼ねる長い時間をも一定の遊戯に夢中となり、所謂、遊戯三昧に入ることでも出来るのであります。斯る状態となつた時の自由は非常な尊さを持つて居るものではありませんが、原始期の衝動的遊戯時代の行動には然したる自由の價値はありません。是等は一に幼兒の發達程度に關係すること、一概に形式的に論斷する譯には行きません。即ち、自由な遊戯の中にも價値あるものと價値のないものがある譯であります。従つて、價値のない自由なら、保育者の都合に因つて之を干渉し、中止せしめた處で、何等の損害もない譯で、斯る無價値な自由を尊重する謂は無い筈であります。然らば如何なる状態にあるときが最も價値のある時かと云へば、夫れは幼兒の主觀的興味如何にあります。即ち、幼兒の興味が其遊戯に於て最も高潮して居るときが、最も自由の價値のあるときであります。換言すれば遊戯上に於ける幼兒の自由は興味と共に存在しなければならぬと云ふことであります。是が即ち遊戯の性質として自由と興味を認められる次第であります。